

企業名： 大日本印刷

レポート名： 統合報告書レポート 2024

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合報告書の最初のページに、『「より良い未来」に向け「P&I イノベーション」で事業を拡げる』とビジョンが掲げられている。また、ブランドステートメントとしては「未来のあたりまえをつくる。」とあり、「企業理念（DNP グループは、人と社会をつなぎ、新しい価値を提供する。）に基づき、持続可能なより良い社会とより心豊かな暮らしを実現するために、長期を見据えて、自らがより良い未来をつくり出すための事業活動を展開しています。」と説明が加えられている。これにより、前述の「より良い未来」の解像度が高まっていると感じた。また、「P&I イノベーション」についても「Printing（印刷から生み出して発展させた技術）」と「Information（情報を取り扱う中で発展させた技術）」を掛け合わせ、更に組織外部・内部パートナーとの対話と協働によって新しい価値の創出を加速させることであると図を用いた説明が為されている。P&I イノベーションは、その詳細について具体例を交えて説明されているページもあり、適切な理解ができる。また、ROE10%やPBR1.0倍超など数値目標も明確に定められている。加えて、これら目指す未来や目標設定については代表取締役社長北島氏へのインタビューにおいても深掘りがなされており、一貫した説明が行われている。これらのことから、大日本印刷が目指している将来の姿は統合報告書を読むことで理解できると感じた。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

業界内で優れたシェアを保持している製品が数多くあることが個別具体的に説明されており、またデータを根拠としていることで、競争優位性が把握できる。また、先述の P&I イノベーションについて見開き 1 ページを割いて説明されているが、それが競争優位性の理解に繋がっている。各技術をどのような領域でどのように応用しているか、それが具体的にどのような製品に発展しているのかが詳細に説明され、またそのような事業発展がどのような力によるものなのかまで述べられているため、理解しやすい。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

大日本印刷はそもそも業界内で高いシェアを誇る企業であり、持続性と安定性は期待できる。そのうえで、各事業分野・各製品について市場環境と大日本印刷の現状、戦略がそれぞれ述べられており、競争優位性を持続的に保っていくビジョンを理解することができる。また、その中でも強みを持ち成長性のあるいくつかの事業を成長牽引事業としてピックアップしているため、持続的優位性が十分期待できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用のハイブリッド策を展開している点について魅力を感じた。社員を主体としたキャリア自律支援制度の展開も進んでいると理解でき、自身の人的資本の価値向上を実現するビジョンが想像できる。リスキリングや DX リテラシー教育も 1000 人規模で行われているとあり、大日本印刷における可能性を感じることができた。これらの試みが形骸化したものではないということがデータの表示によって伝わってくる点もよいと感じた。ただし、数値データだけでなく具体的な説明などによって、実情についての情報がより開示されると、更に期待が高まるのではないかと考えた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

大日本印刷の成長性について、個別具体的な詳細説明がなされている点についてよいと感じた。中でもどの事業が成長性のあるものなのかがピックアップされていることで、大日本印刷の目指す姿やそのための経過想定が理解できる。また、データを併用していることで、それらの説明に説得力が加わっている。

また、P&I イノベーションについての部分と人的資本についての部分に改善余地があると考えた。P&I イノベーションがどのようなものでありどのような形で実現しているかは非常にわかりやすく説明されているが、その定義となっている「大日本印刷の持つ力」についてももう少し具体的な説明があればより説得力が増すのではないかと感じた。また、人的資本向上への試みについて、より現場の状況が伝わるような説明があると望ましいと感じた。